

Aの自立活動について2（その後の変容）

H16.11.18

1 平成16年度当初の様子

PCWでの歩行に関しては、4月の校外散策時に砂利道を含む高低差のあるルートにもかかわらず約1時間歩き通したことにより、自立活動の時間を使っての基礎体力の増強が効果を上げていることを実感した。そのため園の訓練課の理学療法士・作業療法士に相談し、次のロフストランド・クラッチ（以下クラッチと略）での活動を提案した。その結果「体力的には可能だが、気持ちの問題としてはこれからののではないか」ということになったので、本人が興味を持って転倒等の負の経験をさせない、ことを前提に練習を開始した。

2 クラッチ練習開始後の経過

- | | |
|-------|--|
| 6月中旬 | 教材(クラッチ)提示。まずは指導者が実際にクラッチを使用して見せて、故意に嬉しそうに歩き回った。数分間実演し、手の届かない且つAによく見える場所に置いておいた。2～3回それを繰り返したところ、ある日「クラッチする～」との発言があった。 |
| 6月中旬 | 体育館の縦断。まずは対面でクラッチの足を持つ介助により開始。ふらつきながらも数メートル移動できた。数回「怖い」と言ったものの、座り込んだりせず足を出した。クラッチを出し、同じ側の足を次に出す、という足の運びは自然とできていた。開始後3回目で体育館縦断ができた(約7分)。 |
| 7月上旬 | その後数回で往復もできるようになった(往復約10分)。体育館往復が約5分でできるまで急速に伸びた。本人も「クラッチする」とよく発言するまでに気持ちが育ってきた。クラッチ歩行の途中には立ち止まり、片手のみのクラッチで体を支え、片手でタオルを持ち汗を拭くこともできるようになった。理学療法士からは「片手つなぎ歩行時に介助者に対する依存度が明らかに少なくなってきた」との話ももらう。 |
| 10/13 | 県教委計画訪問での研究授業。自立活動に関して行った。授業の様子を見学して下さった先生方からタププリ褒めて頂き、本人は絶好調となる。 |
| 10月中旬 | 中庭の周りの廊下(150m)を介助しながら一周する(約20分)。数日後二周を30分で歩く。 |
| 10/25 | 介助なしで廊下一周半(約200m強)を歩く。その状況は以下の通り。自立活動中、急に指示が通らなくなり、クラッチで立ったままのAに対し、指導者が「もういい、勝手にしなさい」と突き放し様子を見たところ、少しずつ独歩を始め、どんどん前に進み出した。そのまま大いに褒め続けたところ、約200m強を歩き通した。多くの先生方の応援で気を良くしたのも、大きな原動力になったようだ。 |
| 10/27 | 歩行訓練で830mを走った、その日の下校時「クラッチで帰る～」との発言があり、実際にクラッチ介助無しで歩かせたところ、教室から園訓練室までの約280mを35分かけて歩き通し、さらに園の療法士の先生方の熱い要望に応じて園訓練室内を2周(約15m)した。 |
| 11月中旬 | 教室から園訓練室まで、約20分。止まることなくスムーズ。 |
| 11/10 | 担任より作業療法士に「両手クラッチの次は片手クラッチという段階なのでしょうか。」と提案をする。相談してみますとの答え。 |
| 11/17 | 理学療法士より「片手クラッチではなく、クラッチを持たない立位の練習をしましょう」と提案がある。実際に数秒間ならば立っていられる。また集中できる状態ならば2～3歩進むことができる。 |

3 今後の課題

Aは指導者が卒業までの目標としてきたことを既にクリアしようとしており(目標設定が甘かったとは思えない!?)、その成長ぶりには誰もが目を見張る物がある。今後は校内での移動は全てクラッチを使用することや、重心の移動をスムーズに行い、バランスの良い立位で活動できるようにしていくのが目標となるであろう。